

第3回 (仮称) 寺山公園屋内教養施設 施設機能・管理運営計画検討委員会
議事要旨

日時：平成25年9月30日(月)

場所：東区プラザ 音楽練習室2

出席者：委員 伊藤委員、石垣委員、植木委員、大野谷委員、小熊委員、椎谷委員、
濱野委員

東区健康福祉課 谷川課長、石崎課長補佐、木伏係長、湯浅主査

緑グリーンソングマ 新保室長、梅嶋主任技師

議事要旨

1. 施設の導入機能について

(事務局 資料1説明)

<遊び>

植木委員：「遊び」の対象は、3歳未満ということか。

事務局：その通り。

濱野委員：0～2歳の遊び場がそれぞれ仕切られているのか

事務局：その通り。

濱野委員：「常駐しない。巡回する。」についてイメージできない。

伊藤委員：保護者と一緒に過ごすということか。

事務局：支援センターのイメージである。

伊藤委員：遊び場が1つということではなく、大きなイメージで遊びと運動を捉えた方が
良い。きょうだい関係の扱いはどうするか。

事務局：あそびと運動が分けられているが、なんとなく分かれているというイメージ。

植木委員：「乳幼児」が分かりにくくなっている。「乳児および幼児」が良い。

椎谷委員：0歳児の部屋はあるのか。

事務局：部屋を仕切るようにする。

椎谷委員：乳児スペースがあれば良い。

伊藤委員：「遊び」機能は、ダイナミックな遊びをする場ではない。

<運動>

伊藤委員：「飛ぶ」はジャンプか。

事務局：跳躍の「跳ぶ」である。

濱野委員：「遊びのインストラクターとして利用者と関わる」とはどういうことか。

事務局：学生や地域の方がボランティアとして関わってくることを想定している。管理だ

けでなく積極的に関わってもらいたいと考えている。

植木委員：運動系のインストラクターは保育士なのか。体育系の方だと専門性がないと思う。

伊藤委員：場だけを提供するのか、ソフトを提供するのかで違ってくる。プログラムとインストラクターはつながってくるのではないか。遊びと関わるのであれば、専門性が必要であり、経験者が望ましい。何らかの受講者や勉強している学生など。うちの学生は教えないとできない。

濱野委員：学生はボランティアとしては無理。責任が取れない。運動系の遊びを任せるのは難しい。相応の人員を確保しないとできない。

事務局：保護者がいた上でプレーリーダーが関わることを考えている。親子の遊びのヒントを与える程度の想定。

椎谷委員：遊びのインストラクターは責任が発生する。こども創造センターのクライミングは、インストラクターがついている。

伊藤委員：あれがなぜ良くないかという、上に行くしかないからで、次の人が待っている。

椎谷委員：専門に人をつけるかは、曜日や時間帯を考えないと難しい。

大野谷委員：体育館で自由に、親子連れで遊ぶイメージで、インストラクターがいなくてもできる。常駐は必要ない。

< 飲食 >

伊藤委員：「簡易販売」とは何か。

事務局：軽食程度。東区役所内では、障がい者センターで作ったクッキーなどを販売している。常設ではなくそうした簡易の意味である。

椎谷委員：気をつけなくてはいけないのは、「その場でしか食べられない」を提示すること。遊び場には持っていかない。あと、授乳室も父親が入れる場所が必要である。

濱野委員：伊勢丹等の民間の施設を参考にさせていただきたい。

事務局：ワークショップでも同様の意見があった。

< プログラム >

伊藤委員：対象となるのは子ども同士や親子のみか？

事務局：保護者のみも想定される。

伊藤委員：プログラムを考えるのは誰か。どこで考えるのか。

事務局：直営ではなく、指定管理者の可能性が高い。プロポーザルにおいて案を出してもらおう。

濱野委員：もう少しハードルを上げて、他では行っていないことをして欲しい。毎日のように支援センターでの誕生会などのイベントを廻っている人がいる。同じようなイベントを行う施設にはなって欲しくない。他の支援センターと比較されて埋没しない、一歩先のプログラムを行って欲しい。

伊藤委員：支援センターの状況をみて、「想定される活動」に「レベルの高いプログラム」を一言入れるか。

椎谷委員：母親が何を求めているか。例えば、どう手遊びしていいか分からないという人もいる。ニーズを聞いた方が良く、幅広く聞いてもらいたい。

植木委員：具体的な活動を入れなくて、保護者のニーズを取り入れながら活動を展開するという表現が良い。

濱野委員：ニーズだけではダメ。保護者のニーズには広がりがない。子育てに必要なものを公の施設として提供することが大事。活動者の意見・提案も聞いた方が良い。

<学び>

伊藤委員：「プレママ・プレパパ講座」はどこかで行っていると思うが。

事務局：健康福祉課で行っている。

椎谷委員：特色が無いと人が集まっていけないように思う。せめて休日に行えば、ここならではの特徴が出せる。

濱野委員：祖父母向け講座はどうか。

事務局：公民館で行っている。孫と一緒に参加するものも行っている。

椎谷委員：西蒲区では20人くらい集まった。南区でアンケートした際に、祖父母向けの意見が結構あった。遊び方が分からないので、遊びの講座を開催して欲しいという意見があった。

濱野委員：今と昔の子育て方法が変わってきているが、祖父母の子育てには良い方法もあるので大切にしたい。

事務局：提供したいプログラムは「学び」に記載する。

<交流>

伊藤委員：交流単独であるが、全て交流に関わっていると思う。

事務局：特に子育ての不安解消を支援することに力を入れていくことを考えている。

伊藤委員：もう少し緩い、自然な感じで記載した方が良い。

大野谷委員：1人で行った時に仲間作りは難しかった。橋渡しは重要で力を入れて欲しい。

事務局：年齢や住所が近い人同士を橋渡しすることを想定している。スタッフが受付にいるのではなく、声を掛けて自然にできるのが良い。

椎谷委員：初めての人には会話する、名札の色を同じにする、スタッフの声掛けが必要。ただ、話しかけられたくない人も来ているので難しい。

濱野委員：仲間同士の団体で来ることが多いと思うので難しい。

椎谷委員：そこでプログラムがあるときっかけになる。

濱野委員：管理者があまりにも無関心だと難しい。

<子育て相談>

伊藤委員：「子を遊ばせながら相談」とは。

事務局：表現が適切かどうかはあるが、カウンターや部屋を設けた相談所ではなく、活動の中で自然にできた方が良くと思う。

椎谷委員：相談していると泣く人もいる。子どもに聞かれないので、専用の部屋があると良い。

伊藤委員：オープンスペースでは厳しい。

濱野委員：発達障がい児も増えているが、相談を受ける場が東区にはない。専門相談や他機関の紹介など、毎日ではなくてもよいので是非きちんと行っていただきたい。

椎谷委員：保育士などとの連携体制をつくった方が良い。

濱野委員：若い保育士よりも、子育ての経験者の方がまだ良い。

植木委員：保護者の立場になると、やはり専門的な人が良くと思う。ここでは全てを対象にするのではなく、例えば「子育て相談に対応できる専門職者」などの表現が良いのではないか。

事務局：相談者をどう想定するかという問題がある。保育園では相談をしている。ここで全部解決するのではなく、パンフレットなどを置きながら、相談できる場所を紹介するなどのイメージでいる。利用プラスαで相談できるものと考えている。

伊藤委員：子育て相談という機能がある以上は、それに対応しないといけないと思う。ただの橋渡しの機能というのは今の段階では言わない方が良い。子育て相談は、専門職ということを明記していただき、今後どうなるか分からないが要望として挙げていただきたい。

事務局：子育て相談機能をやめてしまうことも考えるべきか。

伊藤委員：子育て相談という機能を取るということか。

事務局：それもある。

椎谷委員：なぜ子育て相談が必要かという、誰にも相談できないことを誰かに話したい母親がいる。多くの相談を受けているが、第一段階は、顔見知りのスタッフがいて、自分たちで答えられないものは、紹介している。母親の悩みとか不安を取り除くことが大事。

事務局：わいわい広場では、数は少ないが、こちらから聞くことも、相談されることもある。事務室にばかりいないで出てきて欲しいという要望もある。

濱野委員：ここでの子育て相談は、専門スタッフが常駐していて、その人が全てを解決できるというものではないと思う。その人を通して専門的な機関につなぐ能力が問われると思う。

伊藤委員：相談することで解決する場合もあるし、より専門的な相談が必要か分かる場合があるので、相談という機能は入れておきたい。

事務局：想定される活動で、遊びながらの相談と別室で相談するということで良いか。

<情報発信>

伊藤委員：紙とウェブで情報発信できると良い。ブログなどの発信も必要になってくる。理想としてはペーパーレス。

事務局：既存施設ではどうしているか。

椎谷委員：ネットで調べて印刷して利用者に渡すことはあるが、基本は紙。また、混雑情報はネットで情報発信できる様にしたが、それ以上は人員の関係から難しい。

伊藤委員：専門の人員が必要になる。

椎谷委員：ホームページでの情報発信は必要。

伊藤委員：情報発信は必要ということで、どうするかは今後検討する。

<一時預かり>

濱野委員：保育園の一時預かりとは違うのか。常に行っているのか。

事務局：常に行っているが、施設または公園を利用する人に限定しなくてはいけないと考えている。有料を考えている。保育者は有償ボランティアとなる。保育サポーターという表現が良い。

濱野委員：講座利用者と考えてよいか。

事務局：上の子を公園で遊ばせる間、下の子を預けるなども想定している。

濱野委員：もらうお金だけで行うのか。

事務局：もらうお金だけだと足りないと思う。補助金をもらうかどうかはこれからの検討。

椎谷委員：当日来る人が多いと考えられる。

植木委員：サポーターの調整作業が忙しくなると思う。

椎谷委員：当日の人は断る場合もある。

伊藤委員：プログラムと学びの関係で一時預かりは外せない。

<公園の活用>

伊藤委員：公園の活用プログラムを考えるのも管理者か。

事務局：その通り。

植木委員：プログラムを活用した公園の活用という意味だと思うが、あえてネイチャーゲームを入れなくてもいいのではないか。

濱野委員：自然がない公園なので難しい。

植木委員：スポーツなどとあるが、どういうプログラムか。

事務局：サッカー教室のようなものではなく、バドミントンとか公園で楽しめるものを想定している。親子だとなかなか広がらない。プログラムの一環としてやっていくイメージで考えている。

伊藤委員：スポーツは競技性やゲーム性が出て来る。遊びとか運動であれば、レクリエーションスポーツやレクリエーションゲームという言い方ができる。

植木委員：あえてスポーツと入れなくても良い。

伊藤委員：運営方法の表現は検討すること。スポーツをするにしても公園が想定された内容になっていない。捉え方が専門的になることもある。要は、公園を活用したプログラムの実施内容を、できた（完成した）公園をみて考えるしかない。

<公園との連携>

植木委員：活用はスタッフが公園を活かすこと。連携は公園利用者が施設を利用できるというイメージで良いと思う。

濱野委員：模擬店はおもしろいが誰が行うのか。この施設で可能なのか。

椎谷委員：イベントの時に気になるのは遊具の位置だと思う。中でできなくて外でできる遊びの中で、外で絵具を使ったようなことができればいいとか、外でしかできない遊びができればいいと思う。泥んこ遊びまで想定していいか。

伊藤委員：連携を踏まえて施設を考えると飲食スペースが広がる。

事務局：飲食スペースが広がるのはいいが、遊び場が小さくなるのは本末転倒。

伊藤委員：「飲食スペース等を活用」は、今のところ入れない。イベント時の連携スペースをつくるのではなく、休憩レベルでいいのかなと思う。

<世代間交流>

伊藤委員：調理室は必要ないのか。

事務局：必要ない程度の活動を想定したい。

<地域連携>

伊藤委員：例えば、落ち葉をみんなで拾って焼き芋ができるといい。

植木委員：公園アダプト制度があり、登録すると助成金が出る。公園を地域が関わる際に、様々な制度を活用すればできる。自治会費を持って余している場合もあり得る。

椎谷委員：地域ボランティアが集まるのか。

植木委員：スタッフが意識的に組織作りを行わないと難しい。

濱野委員：芝刈りはどうなるか。

事務局：公園管理費でできる。

椎谷委員：ボランティアのコーディネーターも必要。

植木委員：会合にするといろいろな利用がなされるので削除した方が良い。

事務局：会合は削除する。

2. 所要スペースとその規模、運営方法等について

<遊びと運動のスペース>

伊藤委員：「乳児、幼児が安心して遊べるスペース」は一つの場所のイメージか。

事務局：簡易的に仕切るように考えている。

濱野委員：規模は積み上げでいいのか。予算は大丈夫か。

事務局：予算の枠はあるが、それありきで進めるのではなく、設計段階はプロポーザルで業者からの提案を受けるので、はっきりとは決めないと考えている。

濱野委員：具体的な議論がいいのではないか。屋根付き運動スペースとなると金額が高くなる。理想ばかりで、できないことを話してもしょうがない。

事務局：面積は1,300㎡で、長岡のてくてくと同程度の規模をイメージしている。予算は、1,300㎡の標準的な建設単価で考えている。

伊藤委員：今の1,300㎡の中に屋外の屋根付きスペースが含まれるのか。別なのか。

事務局：含まれる。

伊藤委員：スポーツとなると屋根を高くしなければならない。ボールの跳ねる音がかなり響いて、近隣から苦情がくる。優先順位を付けて議論した方が良い。

事務局：ワークショップの反応は良かった。ワークショップでは高校生くらいの利用まで広がった。

伊藤委員：推奨したいが、屋外広場があるために、他が機能しなくなってしまう。

植木委員：運動スペースということではなく、外と中をつなぐ土間のイメージであったと思う。運動スペースは違和感があり、土間のスペースは必要かと思う。土間として議論した方がいいのではないか。

伊藤委員：屋外の屋根付き運動スペースは、一旦保留する。

事務局：乳児・幼児は60家族ではなく、1回につき20~30家族の利用の規模として考えていただきたい。

濱野委員：支援センターでは100㎡程度で30組くらいの親子が来ている。物の置き方もある。無理ではないと思う。広ければいいということではない。

伊藤委員：このスペースは大事だと思う。小学生が体を動かせるスペースだと、200㎡は狭いと思う。

事務局：面積は決めにくいので、利用規模を決めていただきたい。参考までに、わいわい広場の一日の利用者は親子で190人。小学校1、2年生は1人で来ても良いが、ほとんど小学生は来ない。

伊藤委員：遊具的なものに場所を取られて、純粹に走ったりする場所を50人、遊具を置くとすればプラスαだと思う。

事務局：大きなアスレチック遊具が良いのか、創造的な遊びを優先するのも議論いただきたい。

濱野委員：アスレチック遊具の予算はあるのか。最初は何もない空間で、後から付け足していくことも可能か。

事務局：てくてくの四角のイメージで、その程度のものは購入できると思う。

伊藤委員：広く取っておくことで後付けも可能というイメージとしたい。1,300㎡の1/3は

下回らない方がいいと思う。

石垣委員：冬場でも遊べる場所が欲しいというワークショップの意見からも、広い場所は必要だと思う。

伊藤委員：平面的に広い場所が必要。根拠は特にないが 500 m²で 70 名利用。

事務局：乳児、幼児が安心して遊べるスペースはどうか。0 歳のお昼寝スペースもつくろうと思う。

椎谷委員：広くできるのであれば、はいはいができるように 150 m²くらい欲しい。

伊藤委員：場所の優先順位を考えた方が良く。この順番で良いか。

事務局：良い。

<休憩・飲食スペース>

伊藤委員：公園連携との関係を考えて、50 名程度は少ないのではないかと。運動が 50 組想定なので 50 名は少ない。

事務局：テーブルといすの組合せも検討しなくてはならない。公園利用者や児童の休憩も想定される。

伊藤委員：平日は良いが、土日は厳しい。

事務局：離乳食用の飲食は別のスペースとなる。

石垣委員：体を動かして、お昼ご飯を食べて、昼寝となると、できるなら広い方が良い。

伊藤委員：公園利用者を考慮すると広めに考えた方が良い。50 名は少ないが 100 名は多い。大人 70 名程度のスペースとする。

<授乳室>

伊藤委員：伊勢丹のベビースペースを参考にしていきたい。

<学びと交流のスペース>

伊藤委員：大人 30 名程度で良い。プログラムを「大人 30 名程度」とすれば良い。

<保育ルーム>

事務局：30 名の講座を考えると、保育は 10 名程度が最大となる。

<エントランスホール>

<情報発信コーナー>

特になし

<屋外スペース>

伊藤委員：他の優先順位の高いものを決めた後となる。現段階で平面図のイメージを持つ

か。提案する時は平米は言わないにしても、現段階で（想定規模の）1,300㎡を超えるのか少ないのか、それが分かると、ここを増やすとか言いやすい。もしくは、そこまで考えずに決めればよいのか。

事務局：そこまで考えなくて良い。

石垣委員：黒埼の保健センターの屋外スペースが良いので、あれば嬉しいと思う。

植木委員：スポーツを想定した完全な屋外型ではなく、施設内外を繋ぐ多目的な空間としたい。

伊藤委員：中途半端な屋外屋根付きスペースならいらない。

事務局：運動スペースの日よけという話があったと思う。その中で小さい子が遊ぶのはあっても良い。屋根付き運動スペースだと概念が違う。大きな庇、日よけ、休憩だと思ふ。

事務局：中途半端とはどれくらいか。

伊藤委員：人数によって、高校生がこのスペースで何が出来るか。屋外であれば年齢制限がない。3on3くらい。サッカーのパスか、これくらいのスペースしかないと、キャッチボールか、例えば、我々がみんなで鬼ごっこしようとしてもすぐ捕まる。

椎谷委員：フットサルをやると他の人が遊べなくなる。

伊藤委員：対象者が広がる程スペースが大きくなって、占有化すると限られた人しか使えない。そうになると体育館になる。

事務局：雨よけ、日よけという考えであれば、特に規模は考えなくてよい。運動ということ無理がある。内と外をつなぐイメージで、休憩したりする場所として考えていく。

伊藤委員：その方が無理がない。

以上